令和7年度周南市こども育成支援対策審議会（第8期第2回）会議録

日　時	令和 8 年 3 月 24 日（火）　15 時 00 分～16 時 30 分
場　所	周南市徳山保健センター3 階　健康増進室１
議　事	議題 １．虐待通報制度の開始及び部会の設置について ２．「周南市こども計画」の変更について ・利用者支援事業（こども家庭センター型）の需要量と確保の方策 ・乳児等通園支援事業の量の見込み並びに提供体制の確保 ３．乳児等通園支援事業の認可及び確認について ４．周南市保育所・幼稚園・認定こども園施設分類別計画について ５．保育提供体制の確保のための実施計画について ６．特定教育・保育施設の利用定員の変更について ７．令和８年度こども・子育て施策関連の主要事業について
出席者	● 委員１２名　※会議成立（３名欠席） 鶴田会長、兼重副会長、三分一委員、秋重委員、原田委員、大野委員、河村委員、竹重委員、野村委員、佐藤委員、加村委員、佐々木委員 ● こども未来部長ほか、事務局１４名（あんしん子育て推進課、子育て給付課、こども保育課、生涯学習課、学校教育課）

議題１． 虐待通報制度の開始及び部会の設置について	
資料１ ・周南市こども育成支援対策審議会規則の改正について ・周南市子ども育成支援対策審議会規則	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	**あんしん子育て推進課** **資料１に基づき、虐待通報制度の開始及び部会の設置について説明**
○委員	この部会に報告する必要があり、フローチャートでいうと対応方針を決めて事実確認をして指導等行い、最後の段階で報告を行うということになっている。そうなった時に、この部会の役割を明確にしておかないといけないが、どういう役割があるのか。

□事務局	あんしん子育て推進課 おっしゃる通り、部会の報告は、最後の段階で最終報告という形となるが、その報告内容についての目的は再発防止が大事な部分になっているので、その後の対策がきちんと取られているかということも含めた意見を伺う場で、所管行政庁に対してそういった意見を求めることができるとなっている。 そのため、再発防止に限らず、虐待の判断について適切に調査が行われたのかどうか、所管行政庁として適切な措置をしたのかどうかについて、報告のなかで明らかでない部分についてご意見をいただくことを想定している。
議題２．こども計画の変更について	
資料２－１ ・周南市こども計画地域子ども・子育て支援事業の「量と見込み」と「確保の方策」の変更について 資料２－２ ・こども計画の変更について 「乳児等通園支援事業の量の見込み並びに提供体制の確保」 資料２－３ ・第三期市町村子ども・子育て支援事業計画　代用計画	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	あんしん子育て推進課 資料２－１に基づき、周南市こども計画　地域子ども・子育て支援事業の「量と見込み」と「確保の方策」について説明
○委員	乳幼児の発達支援が出来る施設の整備ということだが、ここに関わるスタッフの整備はどのように検討しているか。
□事務局	あんしん子育て推進課 まず１つ目の特徴としては、市の直営としてこの発達支援拠点を整備するということになる。保健師を中心とした職員がこちらに常駐して、相談から支援まで行っていく中で、発達に関する専門家は市の職員では難しいので、医師会などのご協力をいただきながら、ある程度の専門性を確保できるような体制を８年度中に検討していきたい。
○委員	相談だけか、それとも通所というか幼稚園保育所みたいな感じで中に入ってできるのか教えてほしい。

□事務局	あんしん子育て推進課 相談を入口とし、必要に応じて継続的にこどもたちに通っていただけるような体制を整えていくことを考えている。また、支援教室の集団型から小さい集団まできめ細やかにできる範囲で対応させていただきたいと思う。就園児でも通える形で保育園に通いながら必要な日数だけこちらに来ていただくとか、保育園との連携も図りながら包括的にこどもの発達を支援していく体制を考えている。
◎会長	次に、乳児等通園支援事業の量の見込み並びに提供体制の確保について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	こども保育課 資料２－２・３に基づき、周南市こども計画　地域子ども・子育て支援事業の「量と見込み」と「確保の方策」について説明
○委員	母子保健推進員をしているが、訪問の時に、これに申し込んだけど駄目でした。という意見を聞いた。現在まだ試行段階だと思うが、どれくらい利用率があるのか教えていただきたい。それと、現在６施設あるが、増えるのかどうか教えていただきたい。
□事務局	こども保育課 実績としては、利用率といえば実質的なところで申し訳ないが、昨年の７月から試行的事業を始め、１月末現在の延べ人数として２７５人、実数として１２６人で、まだまだ利用のニーズが高いと考えている。 ただ、０歳児１歳児等の利用の受け皿というものが６施設ありますが、０歳児等を受ける施設が少ない状況でありなかなか予約が取りにくいとか、なかなか使えないというご意見もアンケート等でいただいている。 もう１つの質問の今後の整備予定についてだが、今年度６施設でやっており、令和８年度は３施設加わり９施設で対応していく。 その後１施設ずつぐらい増やしていきたい。
○委員	ぜひ増やしていただきたい。 保育士の数も減っているので、なかなか難しいがぜひお願いします。
◎会長	地域の偏りはないのか。

□事務局	こども保育課 地域性として、中心部に需要が高い中で、そちらの受け皿が確保できていないという状況があり、どうしても予約が取りにくいところがある。
○委員	実際に今年利用された人で、あれは利用した方がよかったと言われているところ、それから改善をしてほしいと言われているところなんかがアンケートの中で分かるところがあれば教えてほしい。
□事務局	こども保育課 良かったという意見は、こどもが普段はお母さんとずっと２人きりの生活でなかなか他の人と触れ合う場がない中で、誰でも通園で他のこども達、先生方など他の人と触れ合うことができるのがありがたい。 また、転勤族の方で、なかなか周辺に身内がいない方がそういう場に来られて、こどもにとっても非常に色々な体験ができるということで喜んでいらっしゃるという意見をいただいた。 一方で、もう少し頑張ってほしいという意見で言えば、もっと使えるようにしてほしい、国で月１０時間と決められているが、時間を増やしてほしい、給食の提供ができる施設を増やしてほしいという意見もいただいた。
○委員	月１０時間と言われていたが、結果的に令和８年度も１０時間で増えないのか。
□事務局	こども保育課 上限として、１０時間で決まっており、それ以上増えるという状況はない。
◎会長	この通園支援事業については子育てのし辛さとかお母さん達が悩んでいる重要な事柄だと思うので、またぜひ検討していただきたい。
議題３．乳児等通園支援事業における確認について	
資料３ ・乳児等通園支援事業の認可及び確認について	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	こども保育課 資料３を基に、乳児等通園支援事業の認可及び確認について説明
○委員	質問・意見なし。

議題４． 周南市保育所・幼稚園・認定こども園施設分類別計画について	
資料４ **・周南市保育所・幼稚園・認定こども園施設分類計画（案）**	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	こども保育課 資料４を基に、周南市保育所・幼稚園・認定こども園施設分類別計画について説明
○委員	私は須々万に住んでおり、今須々万幼稚園、須々万保育園は新しい園舎が建っている。 こども達はすぐ新しい建物に順応するだろうが、保護者の方がちょっと不安を感じているということだけお伝えしておきたい。４月から須々万保育園が幼稚園の機能と保育園の機能をもつと聞いているが、新しい園舎ができたら移動ということで令和８年度は大変な時期になっているのかなと感じる。令和８年度はそういう状態での保育がこどもたちに負担がないようにお願いしたい。 私は子育て支援をしているが、今は地区内だけでなく北部全域とか、市内の方も来ていただいて、お母さん同士の情報交換がたくさんあり、不安も解消されたらいいと思う。
議題５． 保育提供体制の確保のための実施計画について	
資料５ **・保育提供体制の確保のための実施計画について**	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	こども保育課 資料５を基に、保育提供体制の確保のための実施計画について説明
○委員	宿舎の借り上げについて、どの程度利用実績があるのか。
□事務局	こども保育課 この事業の令和７年度の活用について、２施設で計５名の保育士を対象として活用されている。
◎会長	実際にはどの程度までを上限とか考えているか。
□事務局	こども保育課 国の基準で地域によって上限額が決まっており、ひと月あたり国の補助が、３６，０００円までとなっている。
◎会長	宿舎の借り上げは他の職種でも周南市は実績があるのか。
□事務局	こども保育課 周南市としては今のところ保育士のみとなっている。

○委員	これは幼稚園教諭とか保育教諭というのは入るのか。
□事務局	こども保育課 この事業としては、資格は保育士と定められている
○委員	幼稚園もひっ迫しているので、市で独自でもいいからやっていただきたい。そんなにたくさんの人はいないと思うので。
○委員	私も同じ意見で、人材確保はどこの現場でもそうだとは思うが、特に保育士や保育園教諭など、現場の先生方は保育提供体制のために、色々な保護者、こどもさんがいらっしゃる中で細やかな保育をされていると思うので、その辺のフォローもぜひ考えていただきたい。
議題６．特定教育・保育施設の利用定員の変更について	
資料６ **・特定教育・保育施設の利用定員の変更について**	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	こども保育課 資料６を基に、特定教育・保育施設の利用定員の変更について説明
○委員	４月の須々万こども園の入所状況はどうか。
□事務局	定員９０名で設定をしているが、７０名弱の入所予定となっている。
議題７．令和８年度こども・子育て施策関連の主要事業について	
資料７ **・令和８年度周南市予算の概要（抜粋）**	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	子育て給付課、こども保育課、あんしん子育て推進課、学校教育課、生涯学習課 資料７を基に、令和８年度こども・子育て施策関連の主要事業について説明
○委員	子育て給付課と学校教育課について口頭での説明で資料がなかったので、予算額が分からなかった。分かる範囲で予算額を教えてほしい。
□事務局	子育て給付課 乳幼児医療の助成で１億１千３００万円。こども医療費が約６億円 学校教育課 生活指導推進事業３億７千７百３１万円。市単独でＳＳＷ・ＳＣを雇用する学校家庭支援専門家配置事業については６２４万３千円。教育情報化推進事業（端末更新等の事業）は５億８千４５８万６千円。
○委員	周南コミュニティクラブ事業について聞きたい。一昨年くらいから部

	活動の地域展開がずいぶん話題になり、保護者もいろいろな不安を抱えながら進んできた。保護者も考えを変えなければいけないということで、いよいよ新年度が実際に始り、周南コミュニティクラブが始まるが、食いつきはいいのか、悪いのか。また、コミクラサポーターがどのくらいいるのか教えてほしい。
□事務局	生涯学習課 まずコミクラサポーターは、各中学校１３校に配置をしており 各学校で週一回程度の活動となるので、４人で各中学校を各曜日で一か所ずつ回るようにしている。１６人役いるので、１３校全て回れると思っているコミクラサポーターで応募された方で日数が少ない方もいらっしゃったので、５名で１６人役をキープすることとしている。 中学生の反応だが、１月にアンケート調査をして仮募集をしたところ、合計で１６０名が希望をしている。学校によって多い少ないがあり、少ないところでは３名、多いところでは４０名出ている。
○委員	昨日会議がありまして、その中で皆さんがどのようになるのかと不安に感じておられるのが、中学生の放課後の活動についてで、意見が活発に出た。現在中学生がいる方もいらっしゃるので親の負担やこどもがやりたいことができるのかなど色々な意見が交わされた。周南コミュニティクラブで、今から活動していく中でどのように進めていくのか知りたい。そういった意見を共有しながらこどもたちの見守りをしていきたい。 途中経過でもいいし、どういうふうに進めていくのかが分かるようなものがあれば示してほしい。
□事務局	学校教育課 周南市としては令和８年度からいよいよ部活動の地域展開ということで来年度の３年生の夏の大会や発表会を区切りとして、全て部活動はなくなるという形でこれまでも教育委員会や市長部局と連携を取りながら進めてきた。これからは、こどもたちが色々と自分たちで考えて自分で自分の時間を調整しながら様々な活動を選んで進めていくと。中にはゆっくり時間を過ごすという選択もあるし、家族と一緒に放課後の時間を過ごすという選択もある。様々な選択が行われる中で今までに体験したことがないような、いわゆる部活動では選べなかったスポーツ等も含めて地域クラブの活動の中から色々と選択をしていただきながら、かなりバリエーションのある活動が展開されることになると思っている。学校教育としては、こどもが自分の興味関心に応じて時間の使い方を主体的にコントロールすることができるような力をつ

	けていけるような教育活動に重点を置いて取り組んでいきたい。 生涯学習課 部活動の地域移行後に、中学生の放課後時間が自分たちでどういった活動をするかを中学生自ら選択できることになっている。その選択肢の一つとしてコミュニティクラブという生涯学習機会を提供することでいろんな活動をしてもらいたいということで用意をしている。コミュニティクラブにつきましては、自分達の学校に週に２回程度集まってもらい、中学生自らがこういったことをやってみたい、こういった活動をしたいと自分達だけでやることもできるし、他の生徒と一緒に活動をしたり、地域の方と一緒に活動したりする。集まった中学生がどういった活動をするかを自分たちで計画してどうしたら実現できるか考えてもらって実行してもらう、そういった形で進めていきたいと思っている。ただし、中学生だけではなかなか進み方があっち行ったりこっち行ったりしてしまう可能性があるので、そこにコミクラサポーターとして、５名の職員を雇い一緒について活動を展開していく。その中で地域の方とか公立大学の大学生も協力していただく予定となっており、みんなで中学生の活動を支援していければいいと考えている。
〇委員	今の地域移行のことについてだが、私も実際に地域で色々な活動をしているが、最近よく指導者の方から聞くのが、健康志向に参加する人の意識がかわってきた。もちろん国としてもそういう方向性で進められていることは承知しているし、いいことだと思っているが、その反面健康でストップしてしまうというところを懸念する声も聞こえている。簡単に言うと、指導者になるほどまで続けてくれる人がいなくなったということ。今はまだそういうことをしてくださる方がいらっしゃるからいいが、今後１０年２０年経った時に、果たして地域を支えるようにボランティアで指導してくれる方がいるかどうか。そこは課題として少し持っておいた方がいいと感じている。
〇委員	予算について聞きたい。子ども未来夢基金の活用率を知りたい。以前と比べて活用され始めていると感じるが、そのへんの感覚はどうか。
□事務局	こども未来部 子ども未来基金はモーターボート事業から繰り入れたものを積み立てて活用している。年間でいえば３０億円程度基金から繰り入れしている。予算上はそのくらい活用している。２０億円から３０億円がこども施策についての財源となっている。
〇委員	ありがとうございます。というのも、モーターボートのお金をどう使

	っていいかと議論があると思う。子ども未来夢基金なので、こどものためにこうして使っていただけるのはすごくありがたい。なかなか使途を決めるのは難しいとは思うが、ぜひこどものために使えるお金を要求していただけると充実すると思うので、よろしくお願いしたい。
□事務局	こども未来部 子ども未来夢基金は使っているが、国や県から補助がでるものは、そちらを優先して活用している。医療費の無償化についても独自でやっている部分についてはこの基金がないと難しかった。 活用方法については財政部署と相談しながらしっかり活用して施策の充実に努めてまいりたい。
○委員	市の中で、他に予算が必要とされる中でやはりこども達のために予算をたくさん取ってくださっているのは非常にありがたいと思っている。今幼稚園関係にいるが、医療費の補助はとても助かっている。今の保護者の方は、昔に比べたらお子さんがけがをした時、ほっといていいものか不安になることが多いが、そんな時に補助があるからお医者さんに行きやすい状況にある。こどもの様子を見ながら安心して見守れる状況が現場の中で見られる。これからもぜひ継続してたくさん予算をとっていただければありがたい。
○委員	学校教育課へ質問したい。 学校関係支援専門家配置事業は市でSSWとSCを配置されているという話だったが、各学校に定期訪問という形なのか、各学校に要請されたらというような形なのかと、どのような体制をとられているか教えてほしい。
□事務局	学校教育課 市で単独のSSW１名とSC１名を雇用している。実際には事案が起こった時に関係者が集まってケース会議を開く時に、学校からSSWやSCの派遣の要請があった時に、市から派遣していくという形をとっているので、担当校あるとか巡回訪問という形ではない。具体的には、市で雇用しているSSWがスーパーバイザーという形で、県費の補助がついているSSWが７名配置されているので、その方とスーパーバイザーが一緒になって案件ごとに担当を決め、ケースごとに担当者を決めていくという形で対応している。
◎会長	他に意見がなければ、本日の会議は終了する。